



# 水試ニュース

2004年8月  
通巻 25号

沖縄県水産試験場 〒901-0305 沖縄県糸満市西崎1-3-1  
TEL 098-994-3593  
FAX 098-994-8703  
http://www.pref.okinawa.jp/fish/

## 平成16年度事業について



場長 村越正慶

日頃のお仕事、お疲れ様でございます。昨年度は、我々の八重山支場（藤本裕支場長＝現：水産課課長補佐）に、天皇皇后両陛下の行幸啓があり、大変名誉な年でした。

さて、新年度も早4ヶ月が経過しましたが、全職員が公務に

つきものである定期人事異動による事業への影響を、最小限に押さえ、各担当業務に張り切って邁進しております。

平成16年度の試験研究部門は、本場11名、支場5名の研究員で、水試独自と本庁要請による合計33課題の試験・調査・研究の各分野に取り組みます。普及部門は、本部駐在を含めた7名の専任普及員が通常の普及指導業務と、より実践的な重点普及課題を担当することになっております。

本年度は、アオダイ（シチューマチ）等の資源回復推進調査（漁業室）、藻場造成基礎試験（増殖室）、そしてシャコガイ母貝の成熟制御技術試験（支場）の新規課題や支場の種苗生産技術開発で、ヒレナガカンパチ（ウキムルー）からタマカイ（ミーバイで総称）への対象種変更を実施して参ります。

先日、大分県で九州・山口水産試験場長会が開催され、九州山口の各県に比較して最大の調査海域面積を持ちながら、研究員数と年間研究予算（約8千5百万円）が最少であることを知り、愕然としました。今年度は県立試験研究機関の一元化と、更に、定員の削減も計画されているようです。関係各位の御理解と御声援をよろしく御願ひ申し上げます。

場長：村越正慶

## 漁業室業務内容紹介

漁船漁業に関する研究では、パヤオ漁業でおもに漁獲されるキハダ・メバチのパヤオ周辺での行動や移動回遊について調べています。また、ソデイカで北緯24度以南の漁場の可能性を探るための試験操業を実施するとともに、移動回遊についても調べています。資源管理に関する研究では、マチ類・ハタ類等の重要魚種の資源管理をするために必要な生物・漁業情報を収集し、これを基に有効な資源管理方策を検討しています。海洋環境。漁獲情報に関する研究では、調査船・民間航路フェリー・大型パヤオ「ニライ」などで海洋観測を行うとともに、漁協からパヤオ漁・ソデイカ漁・定置網漁などの漁獲情報を収集しています。得られた情報は、漁海況情報等で毎月広報したり、ホームページで閲覧できる

ようにしています。更に、県内の漁業協同組合に水揚げされる漁獲物の統計情報を収集し、漁獲統計を整備しています。

（主な担当） **渡辺利明**：ソデイカ担当、**海老沢明彦**：資源管理担当、**近藤忍**：マグロ担当、**福田将教**：漁獲統計担当、**下條武**：海洋環境担当

（漁業室長：渡辺利明）

## 増殖室業務内容紹介

増殖室は、海産魚類養殖技術改良・開発試験、介類の新規対象種探索と種苗生産・養殖技術開発、モズクも生理特性解明、藻場造成試験、魚介類の病気診断と防除、養殖漁場環境モニターと漁場改善技術開発と指導、ウニ・カニの放流技術開発等を担当しています。早い話が、儲かる魚の養殖はどんな方法か、新しい介類の増殖はできないか、モズクの健康診断方法は？藻場が減っているが増やせないか、養殖で病気になるが病名や治療方法は？魚を養殖しすぎると漁場が汚れるが良い対策はないか、ウニやカニを増やす放流方法は？ということ皆さんと一緒にやってみようとしています。

これらの仕事のいくつかは、場内の水槽で生物を飼って実験していますが、なにせ築30年の古い施設と市街地化した海の水では試験研究の効率は今ひとつです。新天地に移って亜熱帯海域の増殖技術に新風を吹き起こしたいものです。応援を宜しく御願ひします。

（主な担当） **金城清昭**：魚類養殖、**佐多忠夫**：魚類種苗生産養殖、**諸見里聰**：モズク養殖・藻場造成、**玉城信**：放流技術  
**玉城英信**：魚病診断対策、**中村博幸**：養殖漁場環境対策、**吉里文夫**：技術補佐員

（増殖室長：金城清昭）



## 八重山支場業務内容紹介

八重山支場は、増殖研究を主として行い、川平と名蔵地区の保護水面の管理を行っています。貝類はヒメジャコ、ヒレジャコ、ヒレナシジャコの種苗生産・供給や周年採卵の技術開発にも取り組み、ヒメジャコの人工基盤開発も実施しています。また、クロチヨウガイの疾病対策やヤコウガイの放流効果調査を行っています。魚類はヤイトハタの種苗生産に取り組んでいます。タマカイはまだ親魚養成の段階ですが、早期雄化技術を協同研究で取り組んでいきたいと思っています。

また、(独)八重山栽培漁業センター(旧日裁協)で生産されたスマアラ(あかじん)やシロクラペラ(まくぶー)の放流について、同栽培漁業センターと協力しながら行っています。保護水面は監視を行いながら、川平はシャコガイを中心に調査研究を行い、名蔵は藻場と幼稚仔との関係を調査研究しています。

(主な担当) **久保弘文**:放流効果・川平保護水面担当、**仲盛淳**:魚類・魚病担当、**岩井憲司**:シャコガイ担当、**太田格**:名蔵保護水面担当、**狩俣洋文**:魚類・飼料担当

(八重山支場長:照屋忠)

## 普及センター業務内容紹介

普及センターは、沿岸漁業者に対し技術及び知識の普及教育を、漁業者個々の資質の向上を図ることにより、地域漁業活動や組織活性化し、雨滴に漁業経営に取り組み漁業者育成に努めています。に、青年漁業者が中心となって漁業経営改善の取り組みを行う「**漁業者協業体育成事業**」の実践指導にあたり、次いで、若い漁業者育成のための「**若い漁業者確保推進会議**」が普及事業格をなして担い手育成支援事業を展開しています。その他「**重点課題**」を平成16年度から3年間を目途に10課題を設定し、普及の継続性や実効性のある計画作りを目指し、成果は生産団体等技術指導にあたり、行政・研究員との情報交換に寄与します。

(主な担当) ☆本場:瀬底正武:藻類全般・担い手育成(推進議等)担当、**与那嶺盛次**:介類養殖(ウニ等)・全国普及協担

**山田真之**:藻類養殖(モズク等)・青壮年部担当、**城間一仁**:介類養殖(トコブシ等)・漁船漁業担当、**小澤明子**:魚類養殖・養殖場水質調査担当 ☆本部駐在;**大城信弘**:介類養殖・藻類養殖担当、**牧野清人**:魚類養殖・漁業公害調査担当

(普及センター長:瀬底正武)

## 平成16年度 転入転出及び昇任者

### 転入者(旧所属)

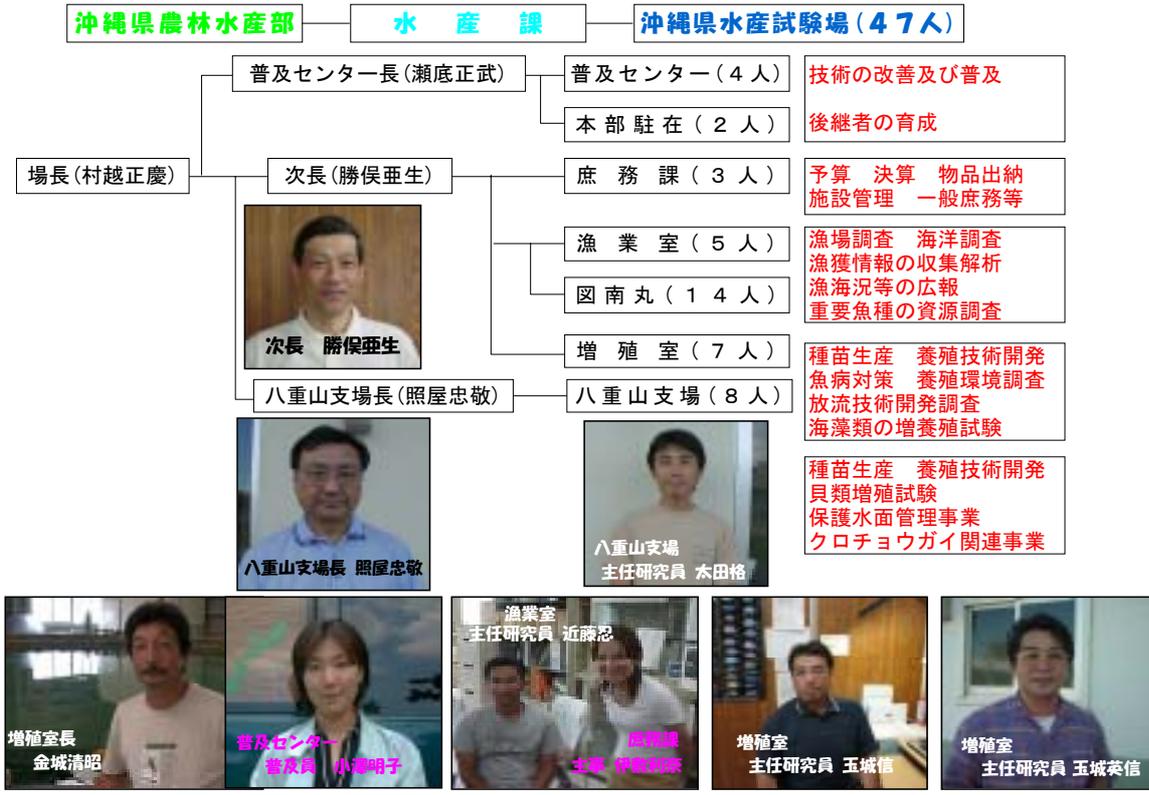
次 長:勝俣 亜生(水産課 課長補佐兼栽培養殖係長)  
 研究主幹兼増殖室長:金城 清昭(栽培漁業センター研究主幹)  
 主任研究員:玉城 信(水産課 栽培養殖係 主任技師)  
 主任研究員:玉城 英信(企画開発部深層水研究所 主任研究員)  
 主任研究員:近藤 忍(水試 八重山支場 主任研究員)  
 水 産 技 師:小澤 明子(水試増殖室 研究員)  
 主 事:伊敷 利奈(土建部北部土木事務所 主事)

### 転出者(新所属)

次 長:照屋 忠敬(水試 八重山支場 支場長)  
 研究主幹兼増殖室長:鳥袋 新功(栽培漁業センター 研究主幹)  
 主任研究員:杉山 昭博(企画開発部深層水研究所 主任研究員)  
 研 究 員:太田 格(水試 八重山支場 主任研究員)  
 主 任:中村 勇次(水産課 主任)  
 主 事:仲井眞 美幸(教育委員会 県立図書館 主事)

### 昇任者

主 任:山田 真之(水試 技師)



\*上の写真は、転入者の皆さんです。